

御前山ビオトープ通信

平成23年7月10日

第33号

発行：御前山ダム環境センター
 編集：NPO「美しい田園21」清野
 メール：denen21@hb.tp1.jp
 ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>



目次

- 1 第2回育成作業を実施 7月5日(火)
- 2 御前山の自然：ダム直下の苗木は元気！
- 3 ビオトープ周辺整備

【案内図】



1 第2回目の育成作業を実施

7月5日(火)に本年度第2回目のビオトープ育成作業を実施しました。夜半の雨も朝方にはあがり、晴天で暑くなりそうな気配でした。

午前9時半には約70名のボランティアが県内外から集合しました。茨城新聞社、地元の大宮新聞社から取材がありました。

今回は、恒例の希少種周辺の選抜除草、草刈に加えて、デッキ床の張替えが大仕事として加わりました。

実は池の周辺に鴨が抱卵中であることが判明し、今回の草刈で作業範囲の縮小制限を検討していたのですが、どうやら蛇に食べられてしまったようで当日は見当たりませんでした。自然淘汰でやむを得ないことであり、予定通り草刈を行うことにしました。

選抜除草作業は、背丈ほども伸びた草むらに希少種を見つけ出すのも大変な状況でしたが、大勢で行うと早いもので、1時間ほどで終了しました。今年は、アギナシは元気でしたが、タコノアシがやや他の野草に劣勢で減少していました。今回の除草を機会に頑張してほしいところです。陽が上がってくると暑くなり、草むらでの作業は大変だったと思います。ご苦労様でした。

早く作業が終わった班では、川の石を堤防補強に積み上げてもらいましたが、こちらは涼しい小川中の作業で快適だったはずですよ。

デッキの床板張替えは、古い板が経年劣化で腐ってきかなり危険な状態だったため、今回はしっかりと杉板を上から打ちつけて立派になり安心です。階段の踏み板も併せて取り替え修理しました。

池の除草作業は、ところどころ深みがあり、アシやガ

選抜除草作業



草むらから顔を出したタコノアシ



デッキ床板の張替え



マなどがしっかりと根を張っていて一番大変な作業でしたが、国営事業所の皆さんが胴長をつけて頑張ってくれてきれいになりました。

お陰さまで 11 時半にはおおむねの作業が完了し、暑くなってきたので早めの昼食休憩としました。

昼食は、地元の婦人の皆さんが暑い中、山菜等のテンプレをあげ、漬物や前回も好評だった「おこわのオニギリ」を用意していただきました。国営事業所からも実証圃の新ジャガ芋が大量に提供されました。食べきれないくらいに沢山あったので、帰途、お土産に皆に持って帰っていただきました。

また、休憩時に「ビオトープ顕彰の地域貢献賞」(前号参照)の賞状が区長からお披露目されました。

陽が高くなって、暑い日差しとなりましたが、それでもビオトープは溪流が流れているので、かなり涼しいようでした。車の屋外温度計で測ってみると、ビオトープの駐車場で 26 度℃でしたが、自宅へ帰ってみると 35 度℃くらいにあがっていましたので、10 度近く違っていたこととなります。もう少し、ノンビリとビオトープで作業したり休憩してから帰った方がよかったと思いました。

2 御前山の自然：ダム直下の苗木は元気です！

ダム直下に子供達が植栽した「エノキ」「山桜」の苗木はしっかりと根付き、新芽も出てきて元気です。この調子で大木に育ってほしいものです。

ビオトープでも、今回選抜除草した範囲以外のナガエミクリ、イヌショウマ、フタバアオイ、クモノスミダ等は現地にしっかりと適応して増え、手を加える必要がない状況です。

ところで、貴重な植物を発見しました。「ツチアケビ(土通草)」別名を「ヤマノカミノジャクジョウ」というそうです。葉緑素も葉もなく、茶褐色の腐生ランで、厚い腐葉層(腐株)のうえなどに成長します。果実がアケビに似ていることから命名されたようです。茨城県内でもめったに見ることはできません。



胴長で池の草刈



ビオトープ顕彰のお披露目



昼食、休憩



ダム直下の山桜



ツチアケビ

3 ビオトープ周辺整備

育成作業に参加した者は気がついたと思いますが、ダム水没地から仮設材を搬入して橋を架け替えているところです。入り口の橋は完成していますが、奥の橋も整備するためビオトープの散策道を重機が進入できるように拡幅整備しました。

なお、御前山ダムの湛水が今月から始まっています。日に日に水位が上がっているところです。